保存版
2022年3月改定

西会津町

防災マップ 2022

いつ起きるか分からない。
だから今、防災に備えよう。

町民の皆さまへ 西会津町の 過去の自然災害 p.1
学ぼう防災 p.2
洪水・浸水害について p.3
土砂災害について p.4
火災対策について p.5
地震対策について p.6
雪害対策について p.7
避難行動ガイド p.8
わが家の防災対策 p.9
備蓄品および非常時持ち出し品 p.10
情報伝達 p.11
避難する場所 p.12
避難施設一覧 p.13
西会津町全体図 p.14
詳細図 No.1～8 p.15
マイ避難シート p.33
行政機関 ライフライン 気象・防災情報 巻末

町民の皆さまへ 「いざ」と言う時に、速やかな避難行動をとるために

自然災害による被害が日本各地で頻発していますが、近年頻繁に発生する局地的集中豪雨や台風の大型化、大規模な地震など異常気象による自然災害は、私たちの想像をはるかに超えた規模となっております。

特に近年の豪雨災害では「数十年に一度」「これまでに経験したことのないような降水量」という大雨が降る傾向にあります。

しかし被害を受けた方へ実施したアンケートによると、雨が降る前の認識が楽観的で、危険がせまってきていることを感じてから避難行動をとった人が多かったことがわかりました。

「これまで大丈夫だったから」と油断することなく、「いざ」という時に速やかな避難行動をとるためには、日ごろから他人事と考えず防災意識を高め、災害に備えることが大切です。

地域の防災力を高める 自助・共助・公助

地震や洪水、台風等の自然災害による被害を最小限に抑えるためには、自分の命は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政の救助・支援「公助」の取り組みが必要です。

大規模災害時では、公助の機能に限界がありますので、「自助・共助・公助」が連携することにより、住民と行政が一体となって地域防災力を高めることが重要となります。

いざという時に備え、適切な行動ができるよう日常的に防災を意識しましょう。

みんなで取り組む 災害に強いまちづくり

自助
～自分の生命は自分で守る～
◆自宅の耐震化や家具類の転倒防止対策等
◆災害情報の収集
◆食料・飲料等の備蓄

公助
≪行政機関の活動≫
◆備蓄品の整備、管理
◆人命救助、復旧、復興
◆自助・共助への支援

共助
～地域の皆さんで互いに助け合う～
◆自主防災組織
◆防災訓練の参加
◆地域に住む要配慮者への支援

西会津町の過去の自然災害

■滝坂地すべりの活動
平安・鎌倉以前と推定されるが、過去に阿賀川をせき止めた記録も残されている。

■慶長16年（1611年）会津大地震
野沢の如法寺など神社仏閣が倒壊、家屋にも多くの被害を受けた。小杉山集落の北方にあった20戸からなる大杉山集落は、飯谷山の山崩れにより集落が埋没、100余名の人命が奪われる。

■昭和31年、黒沢集落を襲った2日で200mm以上の豪雨
長谷川流域を中心に、死者・行方不明者10名、全壊・流失家屋25戸、中野では3名の消防団員が殉職。黒沢の落合集落では、一瞬のうちに集落全体を飲み込み壊滅的被害を受ける。

■昭和39年の新潟地震
M7.3の新潟地震で本町では震度5を観測、土蔵の壁が落ち割れるなど57件の被害が発生した。

■平成22年に降った大雪
国道49号の会津坂下町・西会津町で区間長12km、立ち往生車両が300台にのぼり通行止めとなる。

■平成23年「新潟・福島豪雨」
本町では1時間に31mmの最大雨量を記録、3日で350mmを超える大雨となる。床上、床下浸水等の被害が発生し、5集落で31世帯63名が避難。銚子の口は、一夜にして施設等が跡形も無く流失した。

■平成23年に発生した東日本大震災
三陸沖を震源としたモーメントマグニチュード9.0という国内観測史上最大の地震。本町においては、食料や日用品等の物流が寸断し、燃料が枯渇したことから大きな混乱を巻き起こした。

■平成23年「新潟・福島豪雨」

■昭和31年黒沢集落を襲った豪雨被害

学ぼう防災 「命を守る」ための防災教育

避難するとき

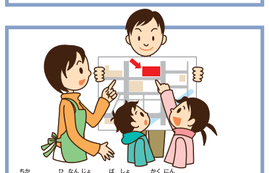
特に洪水時に避難するときは、川のそばの道路の利用は避けましょう。水があふれたりする場合があり大変危険です。

避難がおくれ、危険がせまった場合は、近くの丈夫な建物の3階以上に逃げましょう。

ラジオ・テレビで最新の気象情報に注意しましょう。

避難時は、役場・消防署・警察署などの指示にしたがい、早めに避難をしましょう。

避難するまえに、電気・ガスなどの火元を消し、必要なものをまとめておきましょう。


近くの避難所の場所を、確認しておきましょう。

車での避難は緊急車両の妨げになるので控えましょう。徒歩での避難を行いましょう。

浸水した所は、溝や水路に気づきにくいため、十分注意して避難しましょう。

役場、消防署からの避難の呼びかけに注意しましょう。

洪水時の、はだし、長靴での避難は危険です。動きやすい運動靴で避難しましょう。

助け合いましょう

体の不自由な方や、お年寄りの方は避難することが困難であったり遅れたりすることがあるため、みんなで協力して助けあいましょう。

目の不自由な方には

声をかけて一緒に行動しましょう。

一人暮らしのお年寄りの方には

普段から気をくばりましょう。

耳が不自由な方には

まっすぐ顔をむけ、口を大きくはっきり動かしましょう。紙に書いたり、身振りで情報をわかりやすく伝えましょう。

体の不自由な方には 寝たきりの方には

複数の人で協力しましょう。車いすの場合は3人以上で協力し、上がるときは前向きに、下がるときは後ろ向きで避難しましょう。

避難所では

たくさんの方々が共同で生活するため、お互いの心くばりや思いやりが大切です。不安な気持ちで避難していますので、お互いに気持ちよく過ごせるよう努めましょう。

❶ 水分・塩分補給をこまめに

トイレを気にして水を飲む量が減りがちです。こまめな水分・塩分補給で熱中症予防をしましょう。

❷ 手を清潔に

食事の前やトイレの後には手洗いを。流水が使えないときは、アルコールを含んだ手指消毒薬を使用しましょう。

❸ 食中毒に注意！

出された食事はすぐに食べましょう。下痢、発熱、手指に傷がある人は、調理や配食を行わないようにしましょう。

❹ 体の運動

エコノミークラス症候群の予防、寝たきりの予防のためにも積極的に体を動かしましょう。

❺ うがい・歯磨き

うがい、歯磨きをできるだけ行い、かぜの予防、口の中の衛生を保ちましょう。

❻ 十分な睡眠・休息

誰もが不安を感じています。休息や睡眠を意識してとりましょう。

❼ 必要なときにはマスクを着用

咳をしているときや、アレルギーの原因となるほこりを避けるために、必要なときにはマスクを使いましょう。

❽ 薬で困っている場合は相談を

薬が手元になかったり、薬で困っているときは、医師、薬剤師、保健師などに相談を。

出典：厚生労働省「避難所生活で健康に過ごすため」再編集

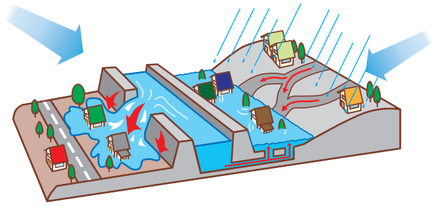
洪水・浸水害について

氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の２タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示を出すのが難しいため、注意が必要。

大雨注意報・警報の発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合

- 表面雨量指数（注１）10
- 土壌雨量指数（注２）71

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合

（浸水害）表面雨量指数19　（土砂災害）土壌雨量指数113

記録的短時間大雨情報　1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

注１ 表面雨量指数：短時間の強い雨による浸水害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が地中に浸み込まずに、地表面にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

注２ 土壌雨量指数：大雨による土砂災害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が土壌中にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

雨の強さと降り方

1時間に10～20mm	1時間に20～30mm	1時間に30～50mm	1時間に50～80mm	1時間に80mm～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して多量の雨が降ることで、「ゲリラ豪雨」とも言われています。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 防災行政無線の放送や、ケーブルテレビの情報をよく確認する。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

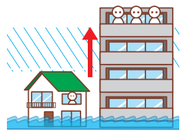
避難行動のポイント、危険な場所

浸水が始まる前に早めの避難を

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。

状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。
移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。



川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子の確認は、自治体などのライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通るのは避ける。

落雷から身を守る

雷は場所を選ばず落ち、とくに、グラウンドやゴルフ場等の開けた場所や、山頂のような高い場所では人に落雷する可能性が高くなる。直撃の危険がある場合は、すぐに建築物や車へ避難することが大切。

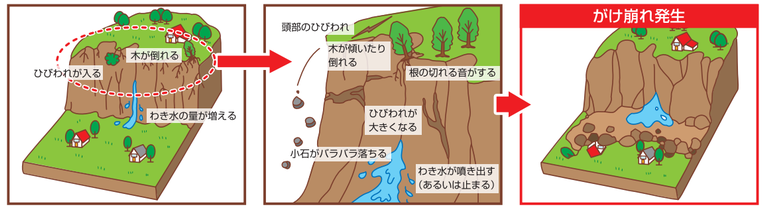
（ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集）

土砂災害について

土砂災害の種類

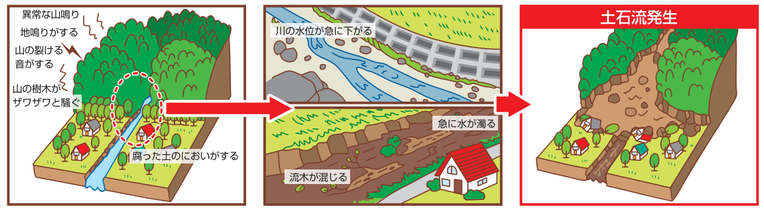
がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



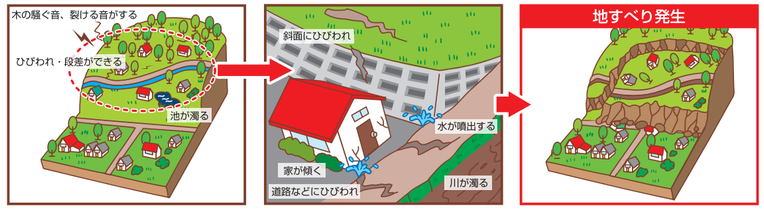
土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

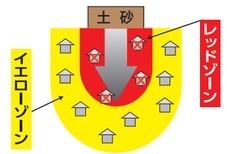


※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害の警戒区域

土砂災害防止法に基づき、福島県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

土砂災害　特別警戒区域（レッドゾーン）	建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
土砂災害　警戒区域（イエローゾーン）	土砂災害のおそれがある区域



避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。
上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

1. 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。
2. 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。

3. 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、２階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。

火災対策について

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。
初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも 119 番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から 3 分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

◆火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火する。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火する。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火する。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火する。

カーテン・ふすま

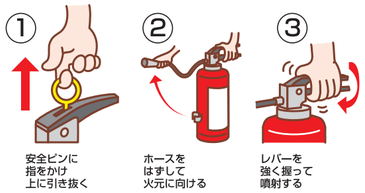
カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけた上で消火する。

3 早く逃げる

- **天井に火が燃え移った場合は、消火の限界。**速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- 一酸化炭素などの有毒ガスを含んだ煙を吸い込まないように低い姿勢でマスク・タオル等で口をふさいで逃げる。

消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



◆消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

火災予防が一番!!

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

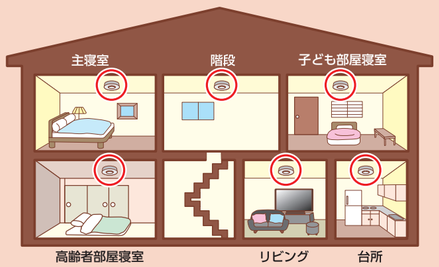
火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

住宅用火災警報器は、「煙式」と「熱式」の２種類があります。火災発生時、まず最初に発生するのは“煙”です。ある程度部屋の温度が上がらないと鳴らない熱式よりも、煙が発生した時点でなる煙式のほうがいち早く火災の発生を知ることができます。このことから、寝室にも台所にも煙式を推奨しています。

住宅用火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所、リビングへの設置もお勧めします(任意設置)。

注意：種類によって異なりますが、住宅用火災警報器の交換時期は、おおむね10年です。早めの交換をお願いします。



地震対策について

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

2～5分

5～10分

10分～半日

半日～3日

! とにかく自分の身を守ろう!

地震だ！　まず身の安全

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低くし、頭を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。

! しっかり火の始末で、火災防止!

大揺れがおさまった

台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。

! わが家の安全確認、確保!

火の始末のあと

家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。

! 隣近所の安否確認、助け合い！

外に出たあと

家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。

! 2、3日は自分でしのぐ！

避難後、数日間

地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

商店・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

公共交通などの車内

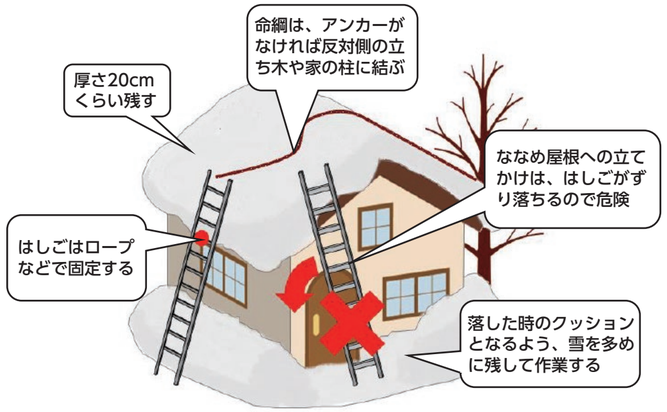
- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

雪害対策について

除雪作業のポイント

雪下ろし作業には命綱を使いましょう！

●転落防止のために命綱を使いましょう。
●命綱を固定するには、専用のアンカーを屋根に取り付ける、反対側の立ち木や家の柱に結ぶなど、状況に応じて工夫しましょう。



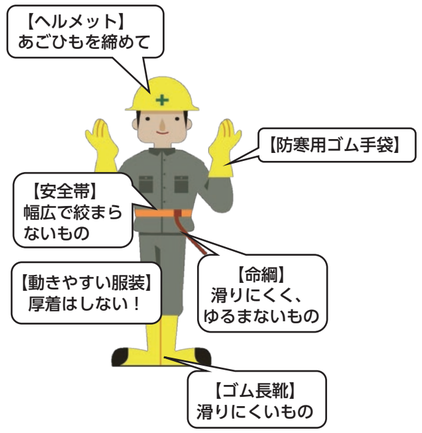
足場はいつも注意！はしごはしっかり固定しましょう

無理な作業はやめましょう！

●体調の悪いときは無理をしないで休みましょう。
●作業前に準備運動をしっかり行いましょう。
●十分に休憩を取りながら、何回かに分けて作業をしましょう。

作業は必ず２人以上で行いましょう！

●事故に備えて2人以上で作業をしましょう。
●やむを得ず1人で作業する場合は、家族やご近所に声をかけましょう。
●携帯電話を持ちましょう。



雪下ろしは安全な服装で！

●ヘルメットを正しく着用しましょう。
●動きやすい服装にしましょう。
●厚底の長靴は避けましょう。
●すべりにくい防寒性のゴム手袋がお勧めです。

冬の交通安全には特に気をつけましょう

●冬場のお出かけは時間に余裕をもちましょう。
●早めにスタッドレスタイヤに取り換えましょう。
●雪道や凍結した道路の運転では、急ハンドル、急ブレーキ、急加速は危険です。
●スピードを抑えて安全運転に心がけましょう。
●積雪時は道幅がせまくなっていることがあります。
●作業中の除雪車には近づかないようにしましょう。

■大雪で車が立ち往生した時

車のエンジンから排出される排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。大雪によって車が立ち往生した際、排気口（マフラー）が雪で埋もれてしまうと、排気ガスが床下などにたまり、ボディの隙間や外気導入口などから車室内に入り込む可能性が高まり一酸化炭素中毒を引き起こすリスクが非常に高くなるので、大雪で立ち往生した時には、こまめに除雪しましょう。

避難行動ガイド

避難とは・・

避難は、災害から命を守るための行動であり、避難行動には次のような方法があります。

- 指定緊急避難場所・指定避難所への移動
- 警戒区域等内の自宅などから移動し、安全な場所への避難（公園、親戚や友人の家など）
- 近隣の強固で高い建物などへの移動

屋外が安全で移動できる状態のとき

- 建物内の安全な場所での待避（家屋内への垂直避難）
  やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の２階以上の高いところへ、土砂災害対策では、斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。

屋外が危険な状態のとき

住民の皆さまが、「自らの命は自らが守る」という意識のもと、自主的な避難を行うために、西会津町・国・福島県では防災情報を5段階の警戒レベルにより提供します。日頃からいざという時に備えて、災害時の取るべき行動の確認をお願いします。

それぞれの**警戒レベル**に相当する情報を、**早めの避難行動の判断**に役立ててください。
町からの**避難指示等の発令に留意**するとともに、避難指示等が発令されていなくとも**自ら避難の判断**をしてください。
警戒レベル５の状況では災害が発生して避難できなくなることから、**警戒レベル３や４の段階で避難することが重要**です。

水害・土砂災害について、町が出す避難情報を5段階に整理しました。

行動を促す情報	住民が取るべき行動	状　況	警戒レベル
緊急安全確保※1	命の危険　直ちに安全確保! ・既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとる。 ・町が災害発生を把握していない場合もあり、必ず発令されるものではないことに留意する。	災害発生又は切迫	5
＜警戒レベル4までに必ず避難!＞			
避難指示	危険な場所から全員避難 ・非常時持ち出し品をもって、立退き避難をする。 ・立退き避難することが、かえって危険と判断される場合は、屋内で安全を確保する。	災害のおそれ高い	4
高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 ・気象情報に注意を払い、立退き避難の必要について考える。 ・立退き避難が必要と判断する場合は、その準備と立退き避難をする。 ・要配慮者（障がい者や高齢者で避難行動が困難な人）は、この段階で立退き避難をする。	災害のおそれあり	3
大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）	自らの避難行動を確認	気象状況悪化	2
早期注意情報（気象庁）	災害への心構えを高める	今後気象状況悪化のおそれ	1

※1　市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル５は必ず発令されるものではない

警戒レベル３は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

避難指示などは、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難指示」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「自主避難」をお願いします。

※「自主避難」とは・・避難指示などを待たず、自主的に地区集会所、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食糧、飲物、日用品などを持参するようにしてください。

わが家の防災対策

家の中の安全対策

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

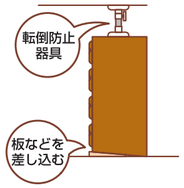
部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。

寝室、子どもやお年寄りのいる部屋にはできるだけ家具を置かない

就寝中に地震に襲われると家具が倒れるおそれがあり危険。やむをえず置く場合は、なるべく背の低い家具にするとともに、寝ている場所に倒れないよう、また出入口をふさがないよう、向きや配置を工夫する。

家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。

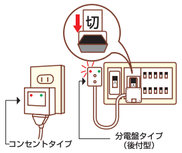


安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

電気火災発生の防止

地震による火災の原因の多くは電気が関連。電気ストーブや電気コンロの転倒や、停電復旧時の通電火災（破損した電気コードのショートによる出火など）がある。
電気火災を防ぐためには、感震ブレーカーの設置が有効。



手の届くところに防災品を備える

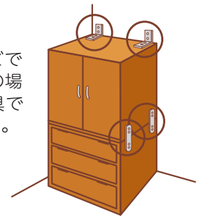
夜間就寝時、停電になると周囲の確認ができず危険。
地震の場合はガラスが散乱したり、部屋に閉じ込められることもある。普段寝る場所から手の届くところに懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを。

家具の転倒、落下を防ぐポイント

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

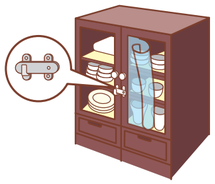
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



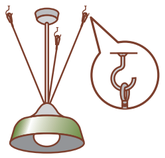
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



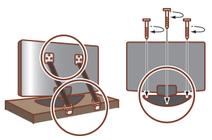
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



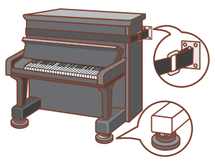
冷蔵庫

所定の取り付け場所(運搬用取っ手など)を転倒防止ベルトで壁や柱に固定する。



テレビ

テレビ台とテレビを直接固定するのが有効。脚などに専用の取り付け箇所がある場合はボルト等で取り付け、そうでないものは転倒防止ベルトなどで固定する。



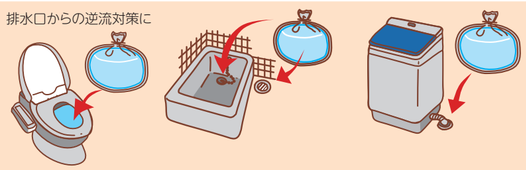
ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。

住宅の浸水被害を防ぐには

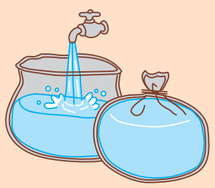
浸水深が小さいときは、家庭にあるものを使って、水の侵入口となるところを塞ぐことで水の侵入を減少させることができます。トイレなどの逆流防止にも有効です。※実施の際には避難の妨げにならないように気を付けてください。

排水口からの逆流対策に



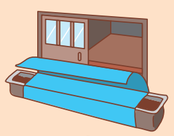
「水のう」の作り方

40L程度のゴミ袋を二重にして半分程度の水を入れる
空気を抜いて口をしばる



段ボール等に入れて並べる

長めの板状のものと組み合わせて止水板に



土を入れたプランターをレジャーシートなどで包むのも有効

備蓄品および非常時持ち出し品

避難するときに最初に持ち出すのが「非常時持ち出し品」。
災害直後から混乱が収まるまでの数日間、自給自足するための物資が「備蓄品」です。
以下は一例です。とくに非常時持ち出し品は、持って逃げられる量にしましょう。（男性15kg　女性10kgが目安）

非常時持ち出し品

●事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

貴重品

- □現金　※公衆電話用に硬貨も
- □印鑑
- □家や車の予備鍵
- □証書類のコピー（健康保険証、免許証、通帳、保険証書、権利書など）

情報収集用品

- □携帯ラジオ　※予備電池も
- □携帯電話（スマートフォン）の充電器
- □モバイルバッテリー　※ライト付きが便利
- □筆記用具

非常飲食品など

- □非常食　※軽く高カロリーのもの
- □飲料水
- □給水袋
- □万能ナイフ

衛生用品

- □救急セット　※常備薬も
- □タオル
- □マスク
- □消毒液
- □体温計
- □トイレットペーパー
- □ウェットティッシュ
- □ビニール袋
- □下着類
- □オムツ

安全用品

- □懐中電灯　※予備電池も
- □笛やブザー　※居場所を知らせるもの
- □ヘルメット
- □マッチ・ライター
- □防災ずきん
- □毛布・保温シート
- □軍手
- □使い捨てカイロ
- □スリッパ

女性向け

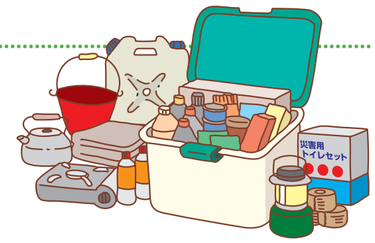
- □生理用品（生理1周期分）
- □おりものシート
- □携帯用ビデ、軟膏
- □スキンケア用品　基礎化粧品等

定期的に点検を！　いざというときに支障がないように食品類の賞味期限や持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

備蓄品

●少なくとも3日（できれば1週間）は自力で生活できるように準備

- 飲料水　※1人1日3ℓ
- 食品　※アルファー化米、長期保存食品など専用品の他、下記ローリングストックの活用を
- 給水用ポリタンク・バケツ
- カセットコンロ・ガスボンベ
- 使い捨ての食器類
- 食品用ラップ
- ランタン
- 災害用トイレセット
- からだ拭きシート
- 水のいらないシャンプー
- ガムテープ
- ビニールシート



上記リストを参考に、特に乳幼児用品、高齢者用品等、災害時に配慮すべき方の用品も、家族構成に合わせて追加しましょう。

ローリングストックについて

備蓄専用の保存食なども大切ですが、
普段から少し多めに食料品や日用品を買っておき、
使った分だけ新しく買い足していくことで、
常に一定量の備蓄を自宅に確保しておくことを
ローリングストックと言います。
日常生活の中に、非常備蓄を上手に組み込みましょう。

ー対象品目の例ー
ペットボトルの水や飲み物、レトルト食品、
インスタント食品、お菓子、乾麺、缶詰、乾物、漬物
カセットコンロのボンベ、ウェットティッシュ、
トイレットペーパー、食品用ラップ、ビニール袋、
乾電池、使い捨てカイロ

「情報伝達」～避難後の伝言・伝達方法～

避難後の伝言・伝達方法を知っておこう。

避難した後

避難所での掲示板

災害用伝言ダイヤル171

災害用伝言板

利用方法

伝言の録音方法	伝言の再生方法
171にダイヤル	171にダイヤル
録音の場合 1	再生の場合 2
被災地の方の電話番号を入力 (XXX)XXX-XXXX	
1 #	1 #
録音する	再生する

災害用伝言ダイヤル171

災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。被災地の方が、安否情報(伝言)を音声で録音することで、全国からその音声を再生することができます。

災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。NTT「災害用伝言板（web171）」との連携により、伝言内容を相互に確認が可能。「171」をダイヤルし利用ガイダンスに従って、伝言の録音・再生を行って下さい。

伝言保存期間	運用期間終了まで	利用可能電話	加入電話、ISNネット、公衆電話、ひかり電話からご利用できます。 ※ISNネット、ひかり電話でダイヤル式電話をお使いの場合にはご利用になれません。 ※携帯電話、他通信事業者の電話からのご利用については、ご契約の各通信事業者にお問い合わせ下さい。
伝言蓄積数	1電話番号あたり1～20件（提供時にお知らせいたします）		
伝言内容	1伝言あたり30秒以内		

災害用伝言板（携帯電話・スマートフォン）

携帯電話のインターネット接続機能で、被災地の方が文字でメッセージを登録し、携帯電話番号をもとにして全国から伝言を確認できます。
（スマートフォンでのご利用については、各社のページでご確認ください。）

利用方法【画面例】

MENU
- 災害用伝言板
- ◆安否確認ご利用…
- ①マイメニュー
- ②週間ガイド おすすめ…
- ③メニューリスト

登録 → 災害用伝言板：被災地の方のみ情報の登録ができます。登録 / 確認 / 削除 →（「登録」は携帯電話からのみ可能）→ 伝言板登録

確認 → 災害用伝言板：被災地の方のみ情報の登録ができます。登録 / 確認 / 削除 →（「確認」は携帯電話・パソコンから可能）→ 伝言板確認

伝言板登録
- ▼状態
- ☑無事です。
- □被害があります。
- □自宅にいます。
- □避難所にいます。
- ▼コメント（～100文字）
- 明日戻ります。

※登録情報確認の際、登録されたお客様自身の携帯電話および登録日時が表示されます。
※10件目以降は、登録済みの古い順に上書きされます。
登録

伝言板確認：安否を確認したい人の携帯電話番号を入力して検索ボタンを押してください。
携帯電話番号 XXX XXX XXXX
検索

「避難する場所」～避難する場所をあらかじめ確認しよう～

西会津町が、災害時の避難先を定めています。防災マップなどで最寄りの避難先を確認してください。

安全な場所に親戚・知人宅がある場合は、緊急時の避難先としての滞在について日頃から相談しておきましょう。

指定緊急避難場所

津波や洪水等の危険から、生命の安全を確保するため緊急に避難するところ。その場所にそのまま滞在することは想定されていません。

●公園、学校のグラウンド、ビル等

指定避難所

災害の危険がなくなるまで必要な期間滞在し、または自宅が被災した方が一時的に滞在するところ。

●学校の体育館、公民館等

指定緊急避難場所や指定避難所に指定されている公共施設はピクトグラム（絵文字）で表示されています。近くの施設を確認しておきましょう。

【一時避難場所】各自治区が危険区域外に選定した、災害発生時に一時的に避難するところです。

福祉避難所

高齢者や障がいのある方、妊産婦や赤ちゃんなど、一般の避難所での生活が難しい方が避難する避難所で、概ねバリアフリー化されており、相談や支援を行うスタッフが配置されます。

※福祉避難所での受入可能な人数には限界があります。一般の避難所で生活が可能な方は、対象となりません。
※災害発生初日から必ず開設されるものではありません。

分散避難

避難所（避難場所）に行くことだけが避難ではありません。避難所の密集を避けるためにも、状況に応じた「分散避難」という取組も重要になってきています。

避難所（避難場所）への避難

●自宅の水害・土砂災害の危険性が高い。
●避難できる親戚・知人宅がない。

→ 町が開設した避難所（避難場所）へ。

親戚・知人宅やホテル・旅館への避難

●親戚・知人宅やホテル・旅館が水害・土砂災害の危険性が低い。
●避難できる親戚・知人宅がある。

→ 親戚・知人宅やホテル・旅館に身を寄せる。
親戚・知人には日頃から相談しておきましょう。

在宅避難

●「家屋倒壊等氾濫想定区域」に入っていない。
●居室が浸水深より高い。
●水・食料等の備えが十分で水がひくまで我慢できる。

→ 自宅にとどまる。
（自宅内の安全な場所へ移動）

【車で避難する場合】

水害・土砂災害の危険が迫っている場合、車での避難は危険です。「まだ大丈夫」と移動したのち、急に周辺の水位が上がり、車内から脱出できなくなってしまう可能性があります。

やむを得ず、車での避難や車中泊を行う場合には、
●雨がひどくなる前の明るい時間帯に、浸水しない安全な場所に移動しましょう。
●トイレなどに困る場合がありますので、簡易トイレの準備も必要です。
●エコノミークラス症候群や熱中症に十分注意し、軽い運動やこまめな水分補給等を行いましょう。

※福島県作成「ふくしま避難ノート」の内容を再構成

避難施設一覧

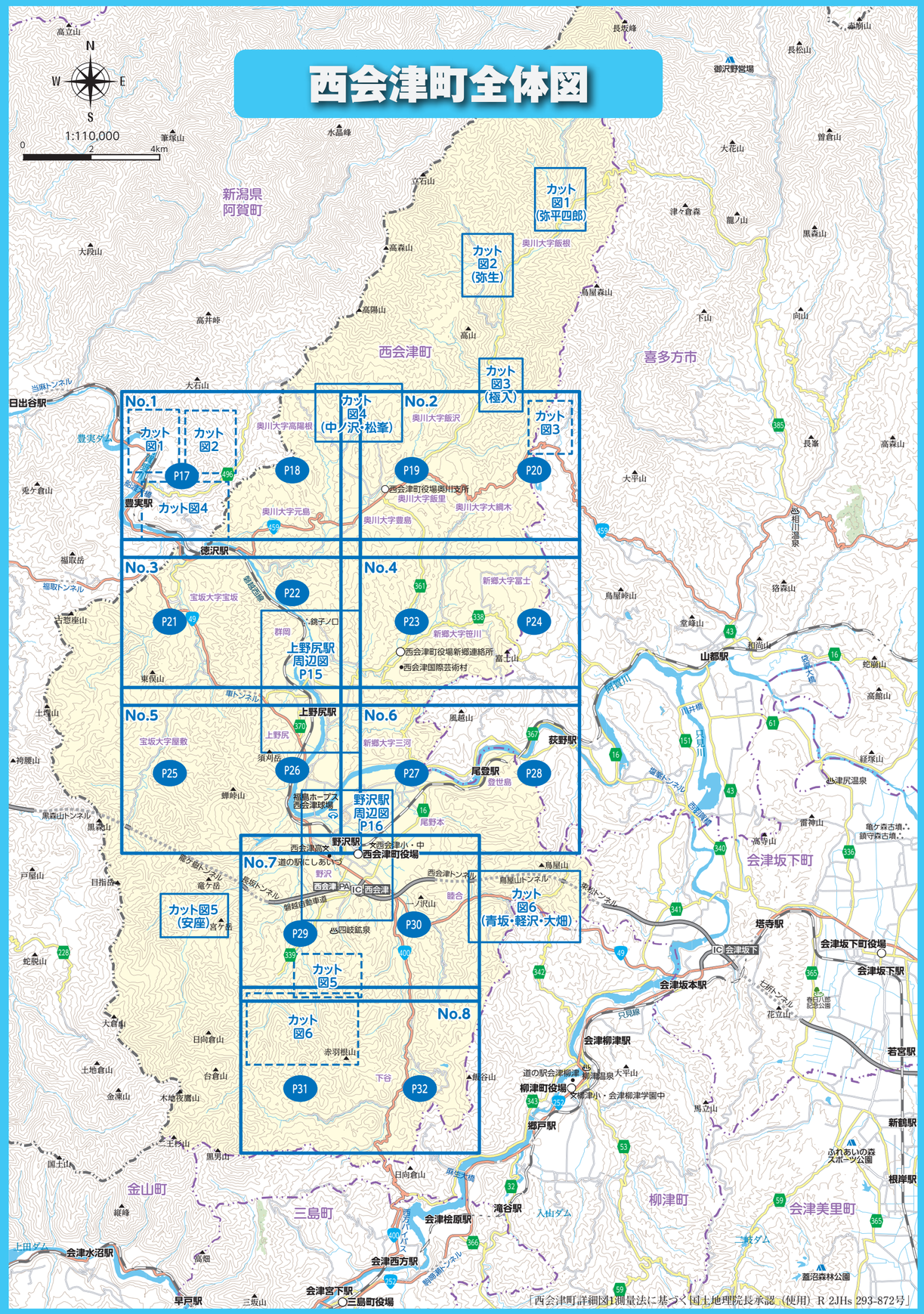
避難施設の種類

指定緊急避難場所	災害発生後の一時避難場所として、学校のグラウンド・公園・公共施設などを指定しています。
指定避難所	災害による家屋の倒壊などで、居住場所を確保できなかった人たちの収容保護を目的として、物資の運搬・集積・炊事・宿泊などの利便性を考慮したうえで、学校・公民館・公共建築物などを指定しています。

指定緊急避難場所・指定避難所一覧

NO		施設・場所名	住所	地図ページ	対象とする異常な現象の種類			
					洪水	崖崩れ、土石流及び地滑り	地震	大規模な火事
指定避難所	1	西会津中学校(アリーナ等)	西会津町尾野本字新森野87	P16･27･30	●	●	●	●
	2	さゆり公園	西会津町登世島字西林乙2529-10	P16･26･27	●	●	●	●
	3	野沢体育館(旧西会津小学校体育館)	西会津町野沢字下小屋上乙3308	P16･26･27･29	●	●	●	
	4	旧奥川小学校(体育館)	西会津町奥川大字飯里字上ノ原37	P19	●	●		
	5	奥川みらい交流館	西会津町奥川大字飯里字上ノ原37	P19	●	●		
	6	群岡体育館(旧群岡中学校体育館)	西会津町上野尻字下沖ノ原2633-1	P15･22･26	●	●		
	7	西会津町公民館	西会津町野沢字原町乙2234-1	P16･29	●	●		
福祉避難所	8	西会津町介護老人保健施設「憩の森」	西会津町登世島字田畑乙2042-65	P16･26	●	●		
	9	西会津町特別養護老人ホーム「さゆりの園」	西会津町登世島字田畑乙2042-71	P16･26	●	●		
指定緊急避難場所	10	旧尾野本小学校(講堂)	西会津町尾野本字樋ノ口原乙1523	P16･27･30	●	●		
	11	旧群岡小学校(体育館)	西会津町群岡字外城甲850	P15･22	●	●		
	12	新郷体育館(旧新郷小学校体育館)	西会津町新郷大字笹川字上ノ原道上5780	P23	●	●		●
	13	旧尾野本小学校上谷分校	西会津町睦合字家ノ下丁277	P32	●			●
	14	旧奥川大舟沢季節分校	西会津町奥川大字大綱木字大舟島3330	P20	●	●		
	15	旧奥川小学校弥平四郎分校	西会津町奥川大字飯根字弥平四郎716	P17	●			
	16	西会津国際芸術村(旧新郷中学校)	西会津町新郷大字笹川字上ノ原道上5752	P23	●	●	●	●
	17	旧尾野本保育所	西会津町尾野本字樋ノ口原乙1523	P16･27･30	●	●		●
	18	西会津町老人憩の家	西会津町野沢字如法寺乙3590-2	P16･29	●	●	●	●
	19	西会津町林業研修センター	西会津町尾野本字樋ノ口原乙1459-1	P16･27･30	●	●	●	●
	20	西会津町保健センター	西会津町上野尻字西林崎3136-5	P16･22･26	●	●		
	21	西会津町克雪管理センター(旧奥川支所)	西会津町奥川大字飯里字檀ノ前1563	P19	●			●
	22	西会津町克雪管理センター大綱木分室	西会津町奥川大字大綱木字杉ノ下476-1	P19	●			●
	23	旧奥川寄宿舎	西会津町奥川大字飯里字沢ノ目449-6	P19	●			
	24	道の駅にしあいづ	西会津町野沢字下條乙1969-26	P16･29	●	●	●	●
	25	奥川体育館(旧奥川中学校体育館)	西会津町奥川大字豊島字大田630	P19	●	●		
	26	西会津小学校(多目的ホール等)	西会津町尾野本字新森野66	P16･27･30	●	●	●	●
	27	屋内ゲートボール場(すぱーく西会津)	西会津町登世島字西林乙5356-3	P16･26･27	●	●	●	●
	28	たかはし桜公園	西会津町野沢字上原乙2424	P16･26･27･29	●	●		
	29	福島県立西会津高等学校(グラウンド)	西会津町野沢字上條道東256	P16･26･29	●	●		●
	30	御稷神社	西会津町群岡字梨ヶ峯甲2543-31	P15･22	●	●		●

※福祉避難所は、一般の避難所での生活が困難な高齢者、障がい者（要配慮者）を対象にした避難所です。
※避難所の開設は、広報等でお知らせします。



上野尻駅周辺図

一時避難場所
常盤
西稲場
群岡
金屋畑
御稷神社 30
馬場甲
熊野神社
憑ケ洲甲
中村甲
蒲坂橋
引橋
下孫目
一時避難場所
孫目
熊野神社
瀬ケ原
瀬沢橋
新郷大字豊洲
一時避難場所
笹川
群岡
一時避難場所
上野尻発電所
長徳寺
磐越西線
御館野甲
旧群岡小学校(体育館) 11
一時避難場所
外城甲
北岐甲
慈眼寺甲
蟹沢甲
根析神社
古峰神社
南荒田甲
荒田甲
西林崎
20 西会津町保健センター
6 群岡体育館
(旧群岡中学校体育館)
群岡診療所
東林崎
上堤
群岡
蟹沢川
下野尻甲
蟹沢橋
新郷大字豊洲
阿賀川
亀ケ平
武藤喜平堤
上野尻
堀甲
一時避難場所
上野尻駅
下五島橋
上五島橋
上沖ノ原
太田
諏方神社
新堤
梵天堤
沢入堤
辻向
西光寺
宝地
橋立橋
須刈岳
N
W
E
S
1:12,000
0 200 400 600 800 1000m

凡　例

土砂災害警戒区域

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 急傾斜地 特別警戒区域
- 急傾斜地 警戒区域
- 地すべり 警戒区域

解説

【土砂災害特別警戒区域】
建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
【土砂災害警戒区域】
土砂災害のおそれがある区域

ため池 浸水深

- 7.0m以上
- 5.0m～7.0m未満
- 3.5m～5.0m未満
- 2.0m～3.5m未満
- 1.0m～2.0m未満
- 1.0m未満

浸水実績

雪崩危険箇所

一時避難場所・避難所

- 一時避難場所
- 1 指定避難所
- 1 福祉避難所

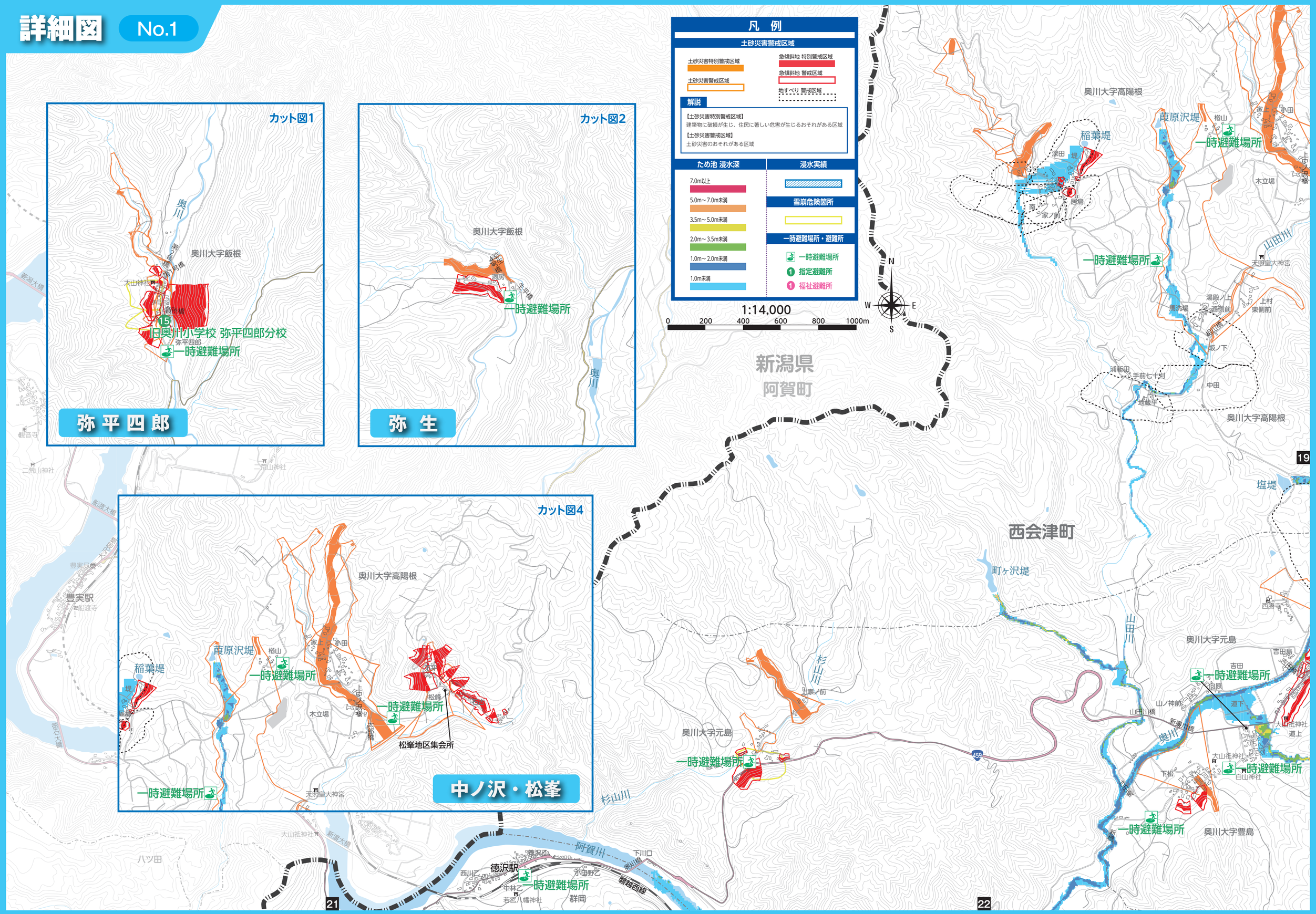
野沢駅周辺図

新郷大字三河
宮ノ脇
富士神社
橋屋平
島田
橋屋
竜蔵寺
中道上
中道下
西会津町介護老人保健施設
「憩の森」 8
西会津診療所
福島ホープス
西会津球場
9
橋屋橋
さゆり広橋
西会津町特別養護老人ホーム
「さゆりの園」
さゆり公園入口
宮田甲
北松原甲
滝額内
野沢
野沢浄化センター
幸平橋
北山名
先塚道南甲
家ノ北丙
安座川
浦道添甲
49
芝草庵易禅寺
西会津高
29
福島県立西会津高等学校
(グラウンド)
寺ノ前丙
小屋田乙
原町
道の駅にしあいづ 24
塚田
塚田乙
大山祇神社入口
桜木前乙
本町
中道橋
本町
中野川
磐越自動車道
雷山公園
18 西会津町老人憩の家
如法寺
遍照者
栖平乙
野沢
四岐家ノ前乙
丸八堤
N
W
E
S
1:11,000
0 200 400 600 800 1000m

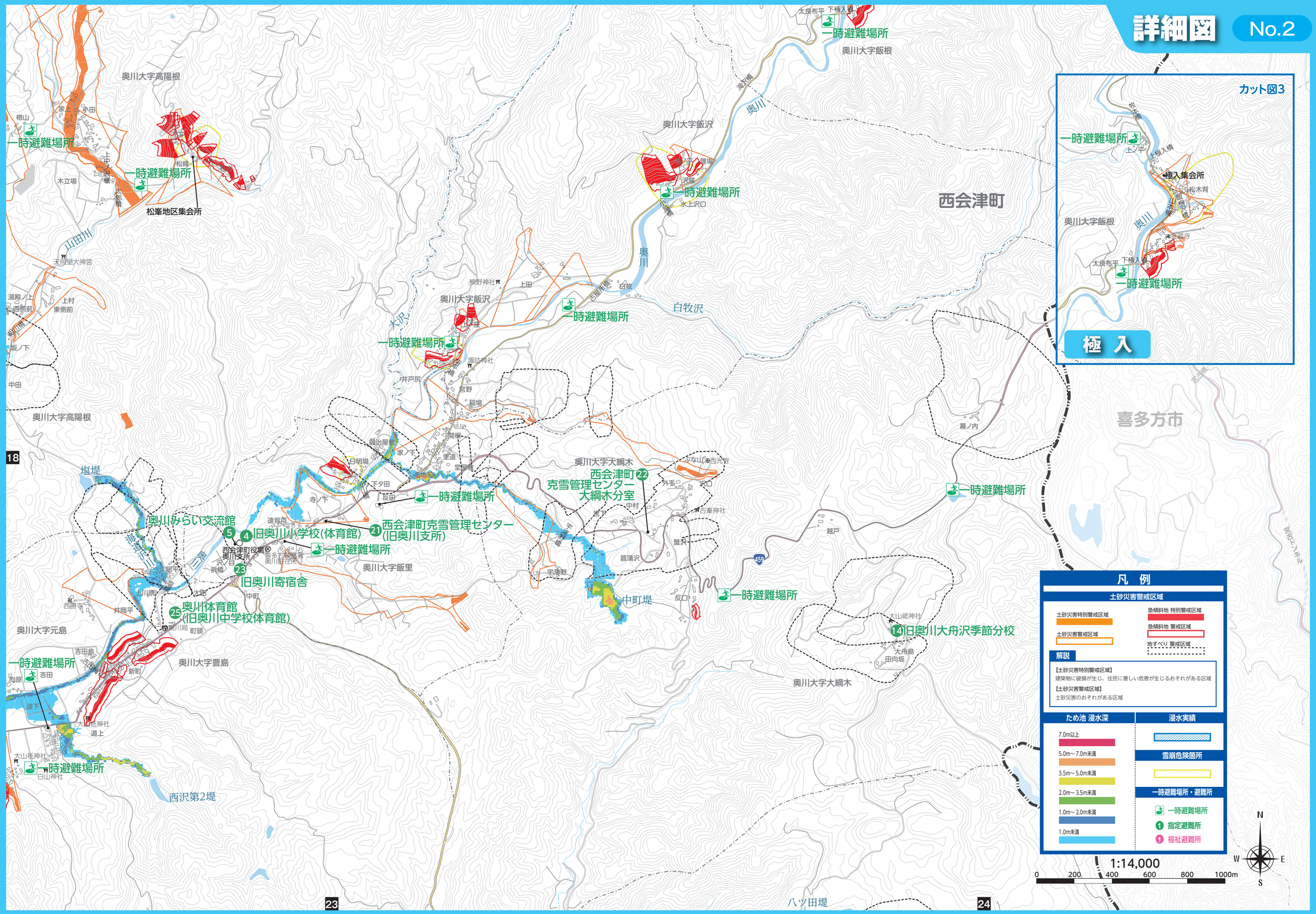
登世島
さゆり公園
2 さゆり公園
屋内ゲートボール場
(すぱーく西会津)
27
四岐川
長谷川
西林大橋
下小島橋
尾野本
川湖橋
下小屋乙
野沢駅
磐越西線
たかはし桜公園
28
上原下乙
原町乙
野沢
西会津小学校
(多目的ホール等)
26
西会津町
林業研修センター
こゆりこども園 19
畳本
西会津小
向谷地甲
西会津中
尾野本
向谷地
旧尾野本小学校
(講堂)
10
1 西会津中学校
(アリーナ等)
17
旧尾野本保育所
下平
宮西甲
下平甲
伊豆神社
新森野
道西甲
森野甲
辰野神社
栄孝寺
本町甲
諏訪局
遍照寺
諏訪西甲
古町甲
地尻甲
長谷川
祝ノ前
諏方神社
諏訪東甲
西会津IC
PA 西会津
西会津
IC
PA 西会津
49
西会津町役場
西会津町公民館
7
野沢駅前

凡例と同じ

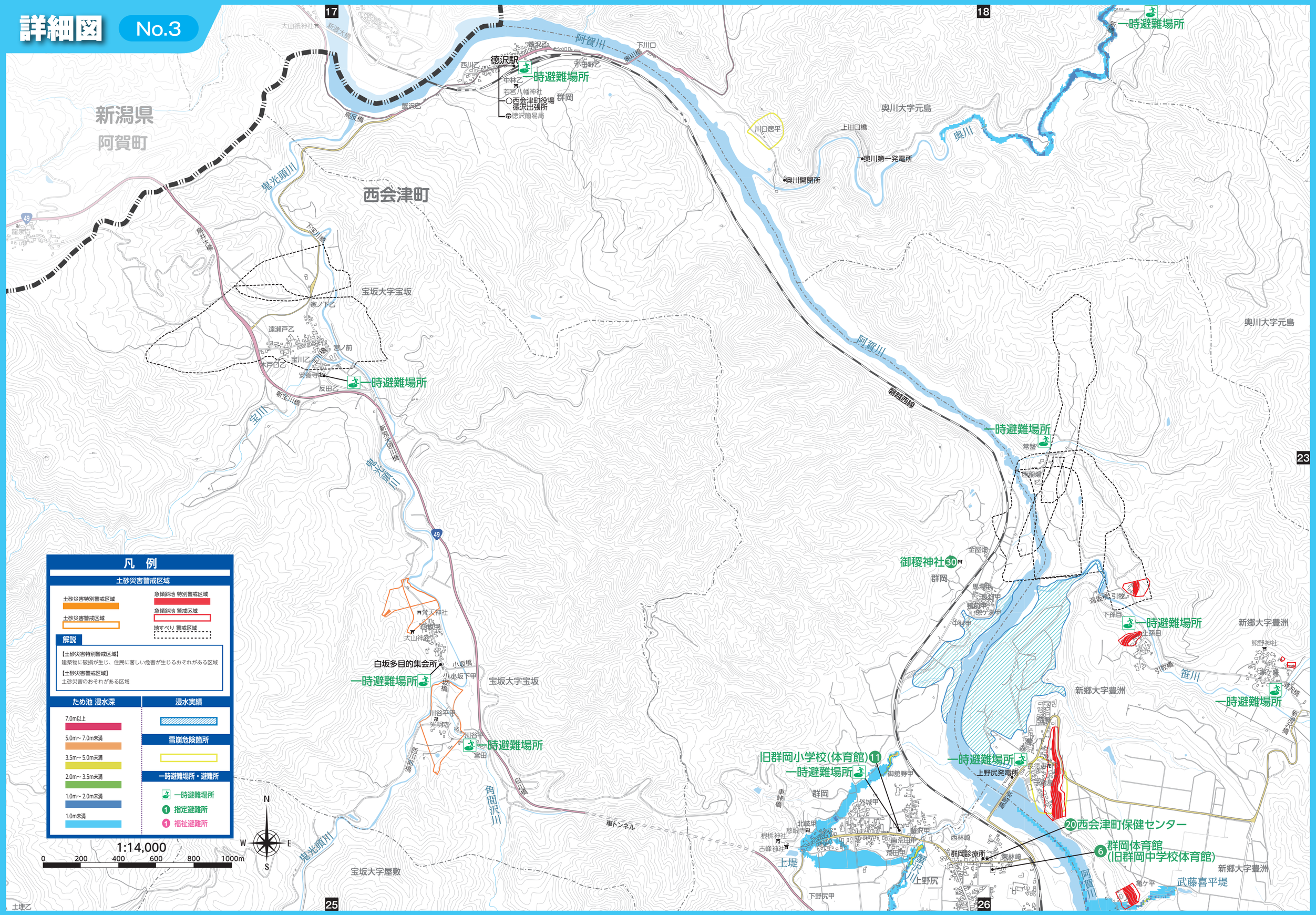
詳細図 No.1


凡　例
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
土砂災害警戒区域
急傾斜地 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域
地すべり 警戒区域
解説
【土砂災害特別警戒区域】
建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
【土砂災害警戒区域】
土砂災害のおそれがある区域
ため池 浸水深
7.0m以上
5.0m～7.0m未満
3.5m～5.0m未満
2.0m～3.5m未満
1.0m～2.0m未満
1.0m未満
浸水実績
雪崩危険箇所
一時避難場所・避難所
一時避難場所
指定避難所
福祉避難所
1:14,000
0 200 400 600 800 1000m
N
S
W
E
カット図1
奥川
奥川大字飯根
天山神社
旧奥川小学校 弥平四郎分校
弥平四郎
一時避難場所
弥 平 四 郎
カット図2
奥川大字飯根
洞房
一時避難場所
奥川
弥 生
カット図4
奥川大字高陽根
稲葉堤
蔵原沢堤
楢山
一時避難場所
松峯
松峯地区集会所
木立場
天照皇大神宮
中ノ沢・松峯
新潟県
阿賀町
西会津町
町ヶ沢堤
塩堤
奥川大字高陽根
稲葉堤
蔵原沢堤
一時避難場所
山田川
天照皇大神宮
湯殿ノ上
上村
東側前
西側前
馬洗場
柳川橋
坂ノ下
浦新田
手前七十刈
中田
地蔵平
奥川大字高陽根
19
奥川大字元島
杉山川
一時避難場所
459
奥川大字元島
吉田
向原
山ノ神前
山田川橋
新奥川橋
道下
大山祇神社
道上
白山神社
下松
一時避難場所
奥川大字豊島
豊実駅
船渡寺
船渡大橋
新渡大橋
八ツ田
阿賀川
下川口
徳沢駅
西川乙
中林乙
若宮八幡神社
弥生野乙
群岡
一時避難場所
磐越西線
21
22

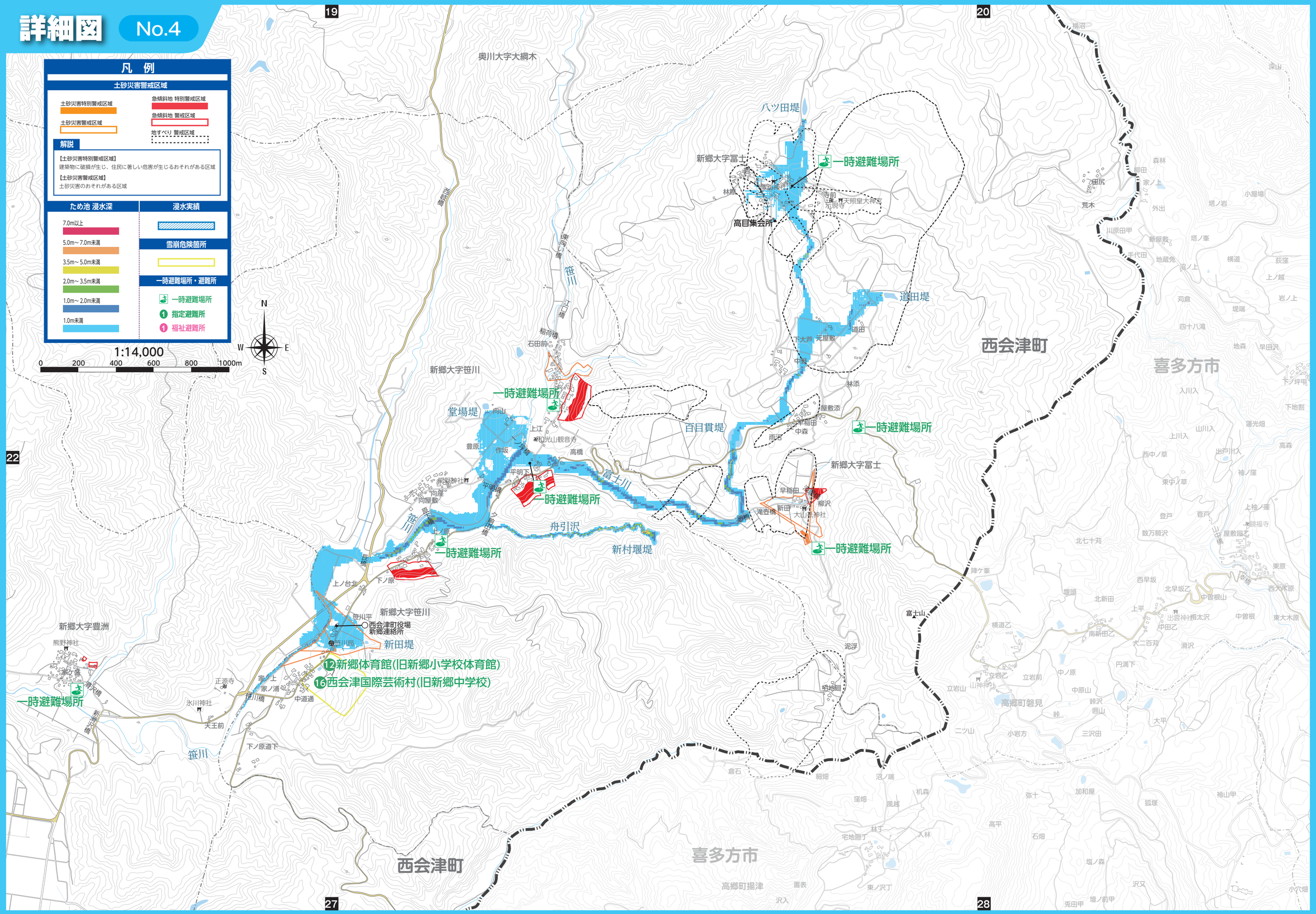
詳細図 No.2


カット図3
極入
極入集会所
一時避難場所
西会津町
喜多方市
奥川大字飯根
奥川大字高陽根
奥川大字飯沢
奥川大字大綱木
奥川大字飯里
奥川大字元島
奥川大字豊島
奥川大字高陽根
松峯地区集会所
西会津町克雪管理センター大綱木分室
西会津町克雪管理センター(旧奥川支所)
旧奥川小学校(体育館)
奥川みらい交流館
旧奥川寄宿舎
奥川体育館(旧奥川中学校体育館)
旧奥川大舟沢季節分校
中町堤
八ツ田堤
西沢第2堤
塩堤
奥川
山田川
白牧沢
大沢
凡　例
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
土砂災害警戒区域
急傾斜地 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域
地すべり 警戒区域
解説
【土砂災害特別警戒区域】
建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
【土砂災害警戒区域】
土砂災害のおそれがある区域
ため池 浸水深
7.0m以上
5.0m～7.0m未満
3.5m～5.0m未満
2.0m～3.5m未満
1.0m～2.0m未満
1.0m未満
浸水実績
雪崩危険箇所
一時避難場所・避難所
一時避難場所
指定避難所
福祉避難所
1:14,000
0 200 400 600 800 1000m
N
S
W
E

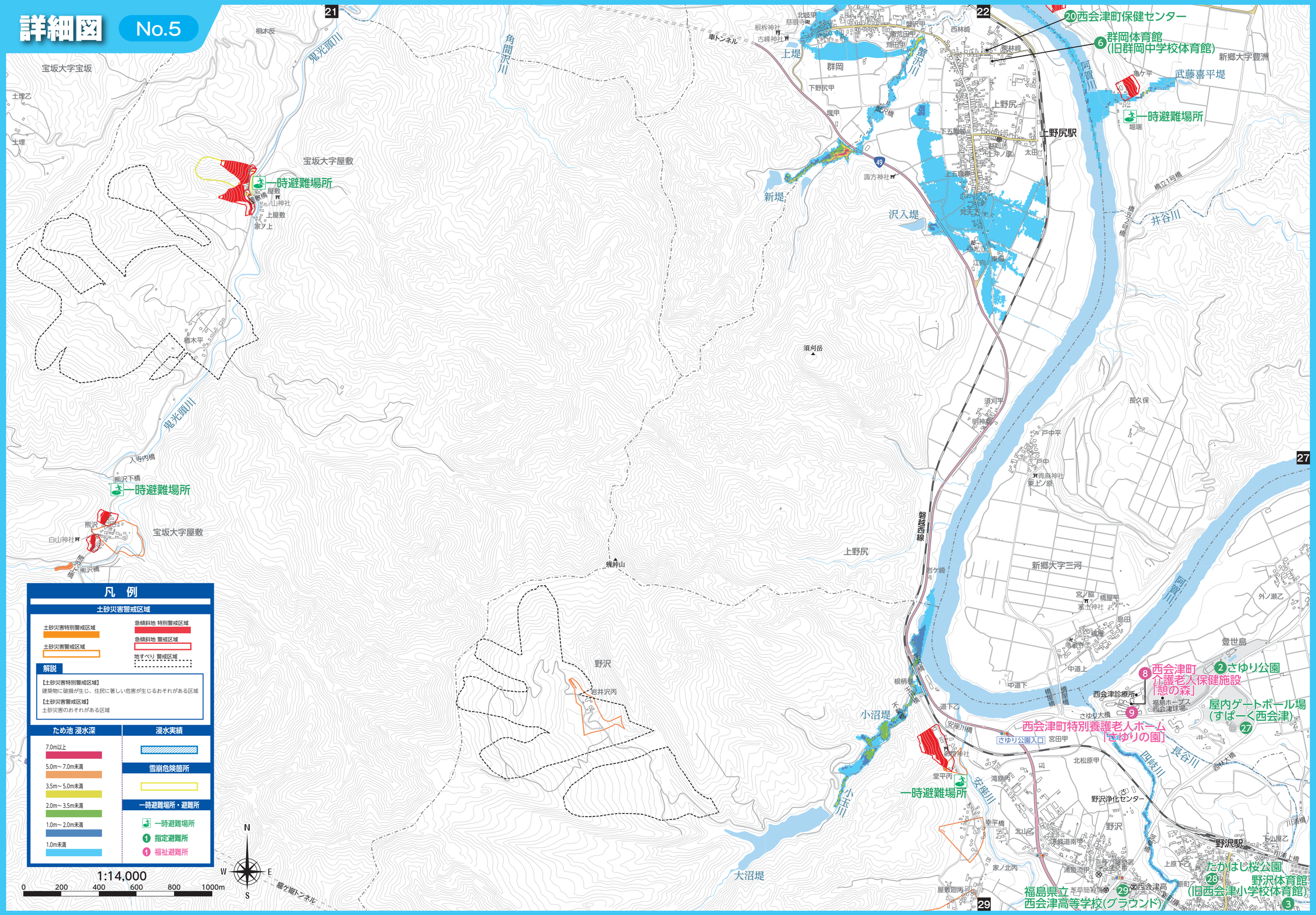
詳細図 No.3


17
18
23
25
26
新潟県
阿賀町
西会津町
阿賀川
奥川
鬼光頭川
宝川
角間沢川
笹川
徳沢駅
一時避難場所
西会津町役場
徳沢出張所
徳沢簡易局
奥川大字元島
奥川第一発電所
奥川開閉所
川口居平
宝坂大字宝坂
白坂多目的集会所
宝坂大字屋敷
御稷神社 30
旧群岡小学校(体育館) 11
西会津町保健センター 20
群岡体育館(旧群岡中学校体育館) 6
新郷大字豊洲
武藤喜平堤
上堤
上野尻
群岡
上野尻発電所
群岡診療所
車トンネル
磐越西線
凡 例
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
土砂災害警戒区域
急傾斜地 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域
地すべり 警戒区域
解説
【土砂災害特別警戒区域】
建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
【土砂災害警戒区域】
土砂災害のおそれがある区域
ため池 浸水深
7.0m以上
5.0m～7.0m未満
3.5m～5.0m未満
2.0m～3.5m未満
1.0m～2.0m未満
1.0m未満
浸水実績
雪崩危険箇所
一時避難場所・避難所
一時避難場所
指定避難所
福祉避難所
1:14,000
0 200 400 600 800 1000m
N
S
W
E

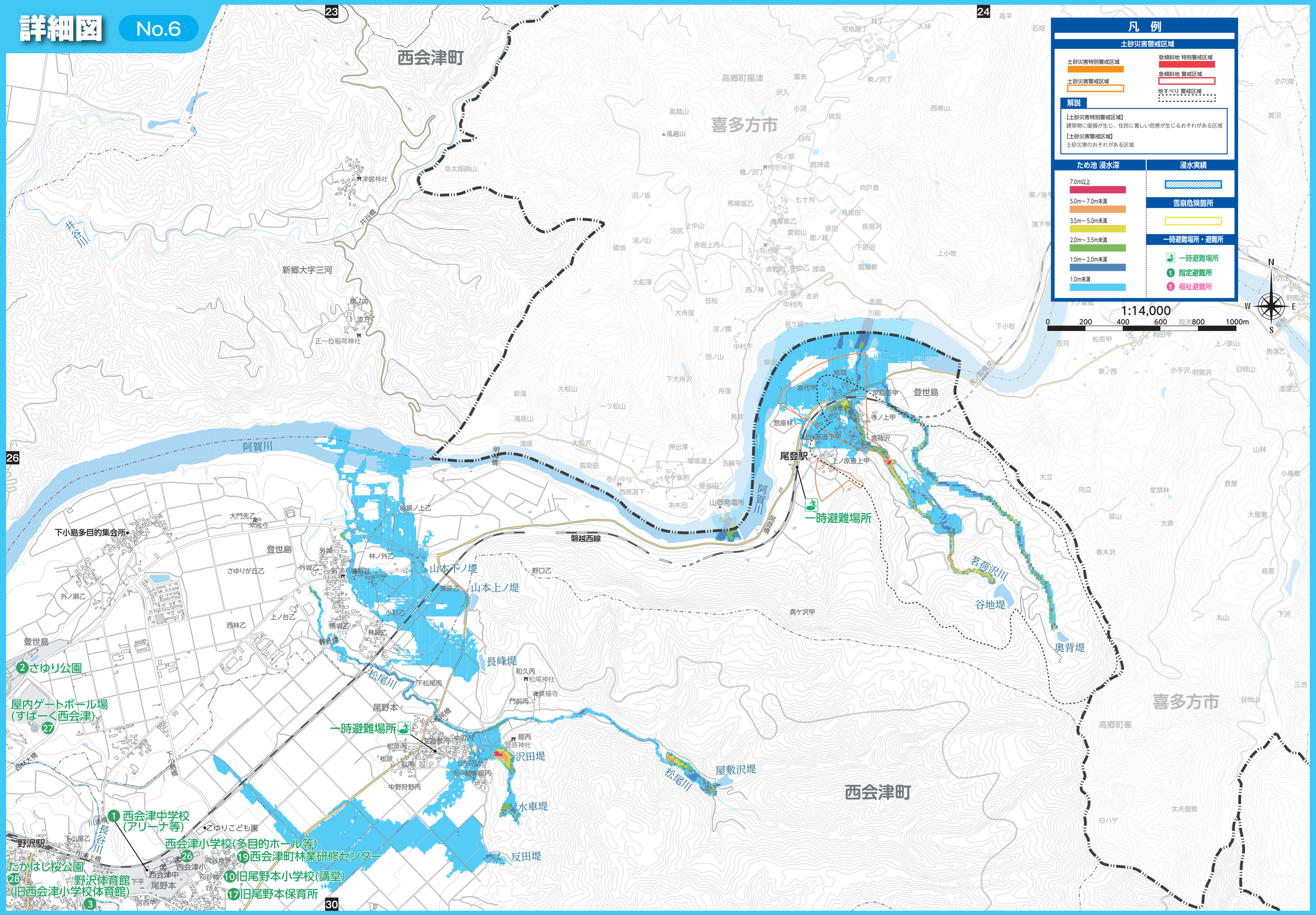
詳細図 No.4


凡　例
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
土砂災害警戒区域
急傾斜地 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域
地すべり 警戒区域
解説
【土砂災害特別警戒区域】
建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
【土砂災害警戒区域】
土砂災害のおそれがある区域
ため池 浸水深
7.0m以上
5.0m～7.0m未満
3.5m～5.0m未満
2.0m～3.5m未満
1.0m～2.0m未満
1.0m未満
浸水実績
雪崩危険箇所
一時避難場所・避難所
一時避難場所
指定避難所
福祉避難所
1:14,000
0 200 400 600 800 1000m
N
W
E
S
19
20
22
27
28
奥川大字大綱木
八ツ田堤
新郷大字冨士
一時避難場所
高目集会所
道田堤
西会津町
喜多方市
新郷大字笹川
一時避難場所
堂場堤
百目貫堤
一時避難場所
一時避難場所
一時避難場所
一時避難場所
一時避難場所
一時避難場所
舟引沢
新村堰堤
新郷大字冨士
新郷大字笹川
新郷大字豊洲
西会津町役場
新郷連絡所
新田堤
12 新郷体育館(旧新郷小学校体育館)
16 西会津国際芸術村(旧新郷中学校)
一時避難場所
富士山
高郷町磐見
高郷町揚津
西会津町
喜多方市

詳細図 No.5


21
22
27
29
宝坂大字宝坂
土埋乙
土埋
桐木反
鬼光頭川
宝坂大字屋敷
一時避難場所
屋敷
山神社
上屋敷
家ノ上
植木平
入寺内橋
熊沢下橋
熊沢
白山神社
熊沢橋
角間沢川
車トンネル
北岐甲
根柝神社
蔡眼寺
古峰神社
上堤
群岡
下野尻甲
堀甲
磐沢川
磐沢橋
49
頭方神社
新堤
沢入堤
須刈岳
蝉峠山
野沢
岩井沢丙
上野尻
上野尻駅
下五駅
上五駅
太田
西林崎
南荒田甲
荒田甲
磐越西線
岩ケ崎
小沼堤
小玉川
大沼堤
龍ケ嶽トンネル
安積川
安積川橋
宮田甲
さゆり公園入口
北松原甲
滝額丙
野沢浄化センター
野沢
北山宮
家ノ北丙
屋敷廻丙
野沢駅
下小屋乙
上原乙
原町
西会津高
福島県立
西会津高等学校(グラウンド)
たかはし桜公園
野沢体育館
(旧西会津小学校体育館)
四岐川
長谷川
西林大橋
川浦橋
川浦上橋
西会津診療所
福島ホープス
西会津球場
西会津町
介護老人保健施設
「頤の森」
さゆり公園
屋内ゲートボール場
(すぱーく西会津)
西会津町特別養護老人ホーム
「さゆりの園」
中道上
中道下
道下乙
さゆり大橋
橋屋橋
外ノ瀬乙
登世島
新郷大字三河
三河
宮ノ脇
橋屋平
第二神社
島田
寺載寺
綾屋
阿賀川
橋立1号橋
橋立1号橋
井谷川
新郷大字豊洲
武藤喜平堤
亀ケ平
堀端
長久保
戸中平
戸中
青麻神社
東上ノ原
西会津町保健センター
群岡体育館
(旧群岡中学校体育館)
凡例
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
土砂災害警戒区域
急傾斜地 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域
地すべり 警戒区域
解説
【土砂災害特別警戒区域】
建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
【土砂災害警戒区域】
土砂災害のおそれがある区域
ため池 浸水深
7.0m以上
5.0m～7.0m未満
3.5m～5.0m未満
2.0m～3.5m未満
1.0m～2.0m未満
1.0m未満
浸水実績
雪崩危険箇所
一時避難場所・避難所
一時避難場所
指定避難所
福祉避難所
1:14,000
0 200 400 600 800 1000m
N
S
W
E

詳細図 No.6


凡　例
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
土砂災害警戒区域
急傾斜地 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域
地すべり 警戒区域
解説
【土砂災害特別警戒区域】
建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
【土砂災害警戒区域】
土砂災害のおそれがある区域
ため池 浸水深
7.0m以上
5.0m～7.0m未満
3.5m～5.0m未満
2.0m～3.5m未満
1.0m～2.0m未満
1.0m未満
浸水実績
雪崩危険箇所
一時避難場所・避難所
一時避難場所
指定避難所
福祉避難所
1:14,000
0 200 400 600 800 1000m
N
W E
S
23
24
26
27
28
30
西会津町
喜多方市
新郷大字三河
阿賀川
登世島
尾登駅
一時避難場所
磐越西線
山本下ノ堤
山本上ノ堤
長峰堤
松尾川
尾野本
沢田堤
屋敷沢堤
水車堤
反田堤
谷地堤
奥背堤
茗荷沢川
下小島多目的集会所
さゆり公園
屋内ゲートボール場
(すぱーく西会津)
西会津中学校
(アリーナ等)
西会津小学校(多目的ホール等)
西会津町林業研修センター
旧尾野本小学校(講堂)
旧尾野本保育所
たかはし桜公園
野沢体育館
(旧西会津小学校体育館)
野沢駅
長谷川
井谷川
正一位稲荷神社
津嶋神社
弥太郎師山
風越山
高郷町揚津
高郷町峯

詳細図 No.7

凡　例

土砂災害警戒区域

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 急傾斜地 特別警戒区域
- 急傾斜地 警戒区域
- 地すべり 警戒区域

解説

【土砂災害特別警戒区域】
建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

【土砂災害警戒区域】
土砂災害のおそれがある区域

ため池 浸水深

- 7.0m以上
- 5.0m～7.0m未満
- 3.5m～5.0m未満
- 2.0m～3.5m未満
- 1.0m～2.0m未満
- 1.0m未満

浸水実績

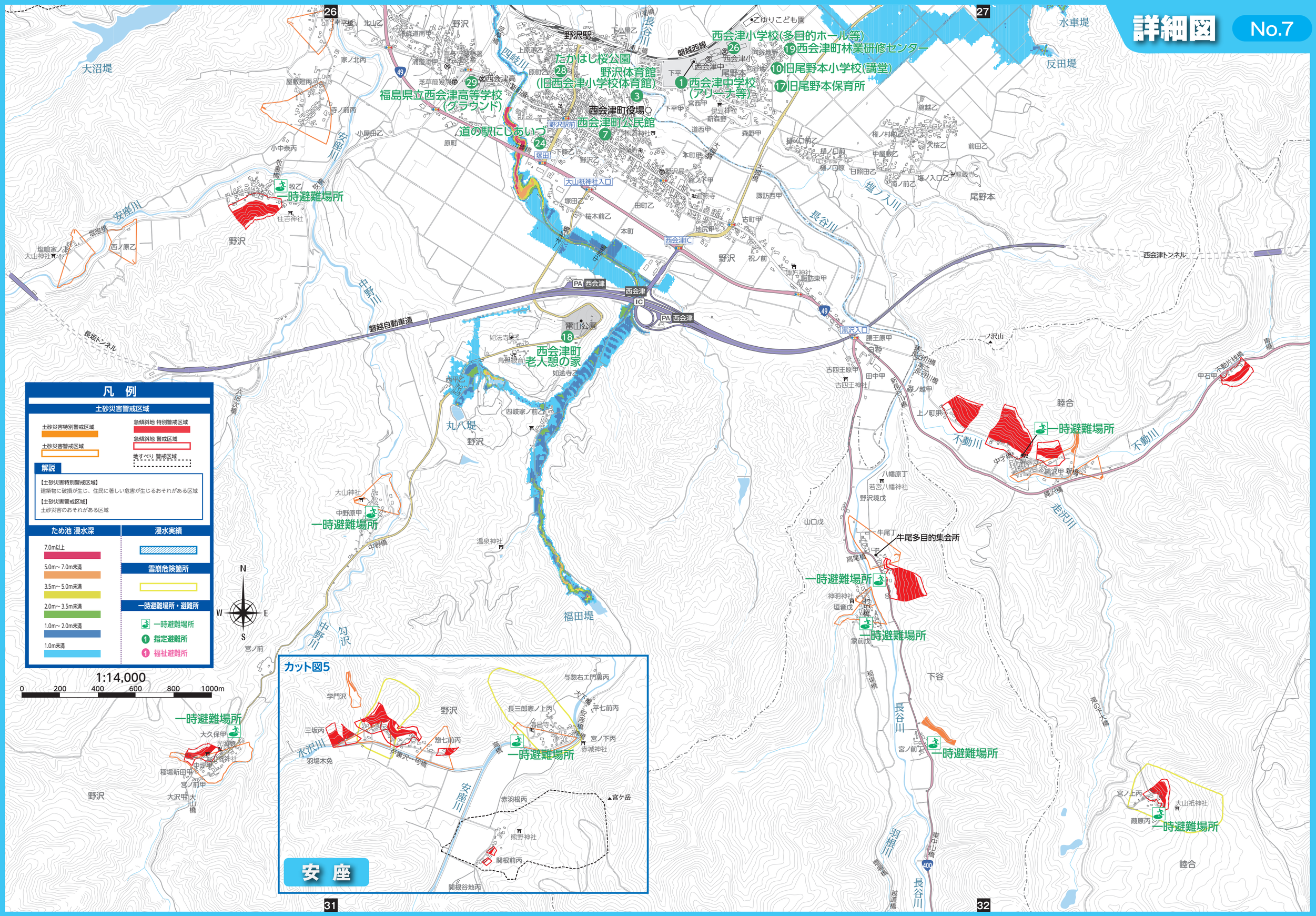
雪崩危険箇所

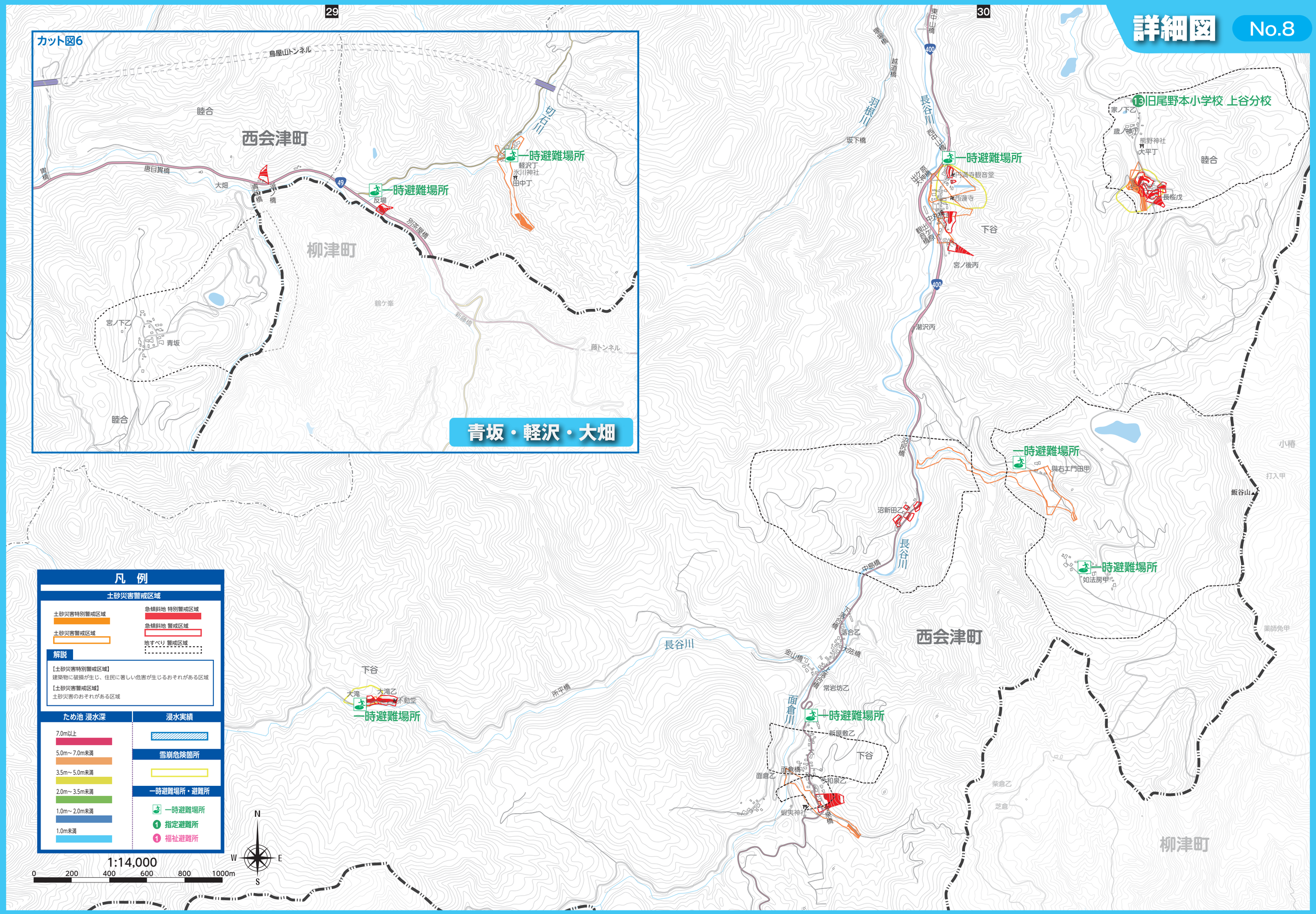
一時避難場所・避難所

- 一時避難場所
- 1 指定避難所
- 1 福祉避難所

1:14,000

0 200 400 600 800 1000m




カット図6
29
30
鳥屋山トンネル
睦合
西会津町
唐目貫橋
大畑
青坂橋
一時避難場所
反場
別荘屋橋
明石川
軽沢丁
氷川神社
田中丁
柳津町
鶴ケ峯
新藤橋
藤トンネル
宮ノ下乙
青坂
睦合
東中山橋
長谷川橋
越道橋
沼坂川
長谷川
坂下橋
長谷川
一時避難場所
中野薬師観音堂
西蓮寺
下谷
宮ノ後丙
潜沢丙
沼尻橋
沼新田乙
長谷川
中島橋
一時避難場所
興右工門田甲
一時避難場所
如法房甲
13旧尾野本小学校 上谷分校
家ノ下乙
歳ノ神下
熊野神社
大平丁
睦合
長桜戊
小椿
打入甲
飯谷山
薬師免甲
西会津町
長谷川
下谷
大滝
大滝乙
不動堂
一時避難場所
所平橋
金山橋
落合乙
大法橋
常岩坊乙
面倉川
一時避難場所
新屋敷乙
下谷
面倉乙
面倉橋
和泉乙
蛭夷神社
泉橋
柴倉乙
芝倉
柳津町
凡 例
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
土砂災害警戒区域
急傾斜地 特別警戒区域
急傾斜地 警戒区域
地すべり 警戒区域
解説
【土砂災害特別警戒区域】
建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
【土砂災害警戒区域】
土砂災害のおそれがある区域
ため池 浸水深
7.0m以上
5.0m～7.0m未満
3.5m～5.0m未満
2.0m～3.5m未満
1.0m～2.0m未満
1.0m未満
浸水実績
雪崩危険箇所
一時避難場所・避難所
一時避難場所
指定避難所
福祉避難所
1:14,000
0 200 400 600 800 1000m
N
W
E
S

青坂・軽沢・大畑

マイ避難シート

～自分にあった避難行動を考え記入しよう～

災害から安全に避難するため、下記の記入例を参考に、次ページに記入しましょう

「マイ避難シート」は、一人一人の家族構成や、自宅や職場の洪水リスクに合わせて、どのような避難行動が必要か、どのタイミングでどこへ避難するのが適切なのかを事前に考え、家族で共有しておく避難計画です。水害の危険から安全に避難するために、家庭や職場で確認しながら、作ってみましょう。

【記入例】

自宅の災害の危険性を防災マップで確認

土砂災害の危険性
☑土砂災害警戒区域　□土砂災害特別警戒区域　□なし

浸水の危険性
☑ある　□なし

今後気象状況悪化のおそれ		気象状況悪化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生または切迫
警戒レベル	1	2	3	4	5
避難情報	早期注意情報（気象庁）	大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
行動「誰が」・「何をするか」	（父）テレビの天気予報を注意 （父）家族全員の今後の予定を確認 （母）防災グッズの準備 （母）1週間分の薬を病院に受け取りに行く （私）テレビ、インターネット等で雨や川の様子に注意 （父）ハザードマップで避難場所、避難手段を確認 など		（祖父母） 〇〇保健センターに、ヘルパーさんと車で避難する。（15分） （私） 川の水位をインターネットで確認 テレビで洪水予報の確認 など	（私、父、母） 〇〇高校体育館に徒歩で避難する。（20分） など	『命を守る行動を』

※避難行動については「誰が」「どこに」「誰と」「どのように」避難するかを記入しましょう。

自宅の災害の危険性を防災マップで確認

土砂災害の危険性
□土砂災害警戒区域　□土砂災害特別警戒区域　□なし

浸水の危険性
□ある　□なし

今後気象状況悪化のおそれ		気象状況悪化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生または切迫
警戒レベル	1	2	3	4	5
避難情報	早期注意情報（気象庁）	大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
行動「誰が」・「何をするか」					『命を守る行動を』

家族や大切な人の連絡先

名前	電話番号	名前	電話番号

避難先になりえる知人・親戚の連絡先

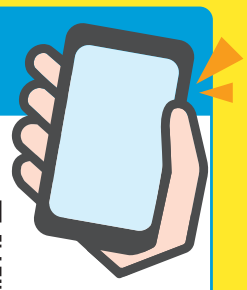
名前	電話番号

※福島県作成「ふくしま避難ノート」の内容を再構成

	施設名	所在地	電話
【行政機関】	西会津町役場	西会津町野沢字下小屋上乙3308	0241-45-2211
	新郷連絡所	西会津町新郷大字笹川字笹川平589	0241-47-2301
	奥川支所	西会津町奥川大字飯里字上ノ原37－1	0241-49-2001
	西会津町公民館	西会津町野沢字原町乙2234－1	0241-45-3244
	西会津町保健センター	西会津町上野尻字西林崎3136-5	0241-45-4532
	西会津町立西会津小学校	西会津町尾野本字新森野66番地	0241-45-2044
	西会津町立西会津中学校	西会津町尾野本字新森野87番地	0241-48-1211
	福島県立西会津高等学校	西会津町野沢上條道東甲256	0241-45-2231
	西会津町こゆりこども園	西会津町尾野本字新森野53	0241-45-4333
	西会津消防署	西会津町野沢字原町50	0241-45-3119
	喜多方警察署　西会津交番	西会津町野沢字浦道添甲97番地6	0241-45-2049
	喜多方警察署　奥川駐在所	西会津町奥川大字飯里字六百苅565番地1	0241-49-2026

【ライフライン】	電　　気	東北電力ネットワーク㈱　【停電・緊急時など】	0120-175-366
	電　　話	東日本電信電話㈱ 【電話の故障、電話線の垂れ下がり発見時など】	113固定電話から、 0120-444-113 （携帯電話から）
	水　　道	西会津町建設水道課【水道設備の故障等】	0241-45-4534

気象・防災情報を入手し事前の準備などに生かしましょう。



西会津町ホームページ

https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/

西会津町 LINE公式アカウント

お友達登録はこちらから！

◎気象庁

気象庁が発表する気象情報・地震・津波情報・データ・火山・気候・環境・海洋情報など

http://www.jma.go.jp/jma/index.html

◎気象庁（気象警報・注意報：西会津町）

気象警報や注意報（西会津町）を確認出来るウエブサイト

https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#area_type=class20s&area_code=0740500

◎国土交通省「川の防災情報」

全国の水位・雨量・レーダー雨量・ダム・水質・積雪深・河川の予警報など

https://www.river.go.jp/index

◎「Yahoo!防災速報」（ヤフー株式会社）

避難情報や緊急地震速報、津波予報、豪雨予報等の災害情報や今後の予報・予測を緊急のお知らせとして通知するヤフー株式会社のサービスです。

https://emg.yahoo.co.jp/

◎内閣府「防災情報システム」

全国の地震・津波・気象・河川・被害状況・ライフライン・災害救助や生活支援など

https://bousai-system.go.jp/index.jsp

◎NHKあなたの天気・防災（西会津町）

天気や災害情報（西会津町）をまとめてお伝えするウエブサイト

https://www.nhk.or.jp/kishou-saigai/city/weather/07405000740500/

◎福島県河川流域総合情報システム

雨量・水位状況、気象情報、水防情報、土砂災害警戒情報など

https://kaseninf.pref.fukushima.jp/web_pub/riverMap_1.html

◎「キキクル」（危険度分布）の通知サービス

気象庁で公表している、大雨による「土砂災害」「浸水害」「洪水災害」の危険度の高まりを5段階の色分けで地図上に表示する「危険度分布（愛称:キキクル）」。
大雨による危険の高まりをアプリやメールなどで知らせてくれる通知サービスを、気象庁の協力のもと、民間事業者5社が提供しています。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/ame_push.html

発行：西会津町【問い合わせ：町民税務課 TEL0241-45-2215】　製作・著作：株式会社ゼンリン郡山営業所【問い合わせ：TEL024-933-4111】

「この地図は、西会津町長の承認を得て、同町発行の 1/2,500 都市計画図、1/10,000 管内図を使用して調整したものである。（承認番号）30 西建水 58 第 366 号」